

編集後記

本号は所外からの寄稿では図らずも老人問題を取り扱った力作が揃いました。いずれも従来本誌ではあまり登場しなかった政治学、医学、心理学といった学問分野からのアプローチです。キャンベル氏の論文は我国の老人福祉施策の展開過程を現代政治学の方法論を適用しながら国際比較の視点もまじえ鋭い分析をおこなったもので、この論文の基礎となったデータ蒐集のため本研究所にも頻繁に足をはこばれました。本研究所の一つの役割はこのような国際的な研究の交流の媒体となることであろうと思われませんが、財政的にも、物理的な研究環境の両面からみてもそのような態勢は不十分というほかはありません。大方の支援を得てこの面の充実を図ることが必要とされると思います。奈倉、井上両氏の論文も呆け老人対策、終末介護の問題という老人問題の新しいしかも重要なトピックスを論じたもので味読をお願いしたい貴重な論文です。

また、仁科氏の論文は投稿規定によって掲載された論文です。本誌に清新な風を入れるためにも皆様からの投稿を編集者一同心からお待ちしております。

今年度も本号をもって終了し、本誌も19巻、通巻80号目を迎えることになります。来年度も幾つかの企画を予定しております。厳しい環境が続くと思われますが本研究所の活動が我国の福祉制度の健全な発展のためにいかほどかでも貢献できればと願っています。引き続きご支援とご鞭撻の程お願いいたします。(高橋)

編集委員長 福 武 直 (社会保障研究所長)

編集委員 青 井 和 夫 (津田塾大学教授)
飯 野 靖 四 (慶応義塾大学教授)
小 沼 正 (駒沢大学教授)
小 林 良 二 (東京都立大学助教授)
小 山 路 男 (上智大学教授)

地 主 重 美 (千葉大学教授)
平 石 長 久 (社会保障研究所調査部長)
保 坂 哲 哉 (金沢大学教授)
三 浦 文 夫 (日本社会事業大学教授)
安 川 正 彬 (慶応義塾大学教授)

編集幹事 城 戸 喜 子 (社会保障研究所主任研究員)
高 橋 紘 士 (社会保障研究所研究員)

栃本一三郎 (社会保障研究所研究員)

(五十音順)

季刊
社会保障研究 Vol. 18, No. 4, Spring 1983

(通巻 79 号)

昭和 58 年 3 月 25 日 発 行

編集・発行所

社 会 保 障 研 究 所

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目3番4号
社会事業会館内 電話 (580) 2 5 1 1

製 作

財団法人 東 京 大 学 出 版 会

〒113 東京都文京区本郷7丁目3番地の1
電話 (811) 8 8 1 4